



令和2年度

PIANC-Japan 活動報告書

令和2年6月

国際航路協会日本部会

目次

各委員会の概要

(1) InCom	鈴木 勝	日建工学（株）	1-1
(2) MarCom	樋口嘉章	（株）オリエンタルコンサルタンツ	2-1
(3) EnviCom	深海正彦	日鉄エンジニアリング（株）	3-1
(4) RecCom	山下雅人	（一社）日本マリーナ・ビーチ協会	4-1
(5) CoCom	小野憲司	阪神国際港湾（株）	5-1
(6) YPCom	伴野雅之	港湾空港技術研究所	6-1
	吉塚尚純	日建工学（株）	

<参考>PIANC カンボジア・セミナー（R1.10/24-25）写真集	7-1
--------------------------------------	-----



Inland Navigation Commission (InCom) : 活動報告

2020年 6 月22日
PIANC日本部会



ベルギー : Sart Canal Bridge

日建工学 鈴木 勝

1



Member List

Philippe Rigo – Belgium Chairman

Jasna Muskatirovic – Serbia Secretary



Leonel A. Temer – Argentina
Jürgen Trögl – Austria
Michael Fastenbauer – Austria
Akula Nidarshan – Belgium
Jean-Michel Hiver – Belgium
Stefan Devocht – Belgium
Adalberto Tokarski – Brazil
José Renato Ribas Fialho – Brazil
Mitko Toshev – Bulgaria
Denitsa Mateva - Bulgaria
Luc Boisclair – Canada
Jim Athanasiou – Canada
Gensheng Zhao – China
Wu Peng – China
Yun Li – China
Fabio Zapata – Colombia
Tero Sikiö – Finland

Benoît Deleu – France
Fabrice Daly – France
Gernot Pauli – France
Holger Schüttrumpf – Germany
Reza Saffari – Iran
Masaru Suzuki – Japan
Lee Choong Hyo – South Korea
Otto Koedijk – the Netherlands
Ricardo Miguel Obregón Montes – Peru
Evgeny Brodsky – Russia
Ljubisa Mihajlovic – Serbia
Ignacio Sanchidrián Vidal – Spain
Rodrigo García Orera – Spain
Fran Littlewood – UK
Jim Stirling – UK
Brian Tetreault – USA
José E. Sánchez – USA
Ton Nu Thi Thanh Yen – Vietnam
Jorge Enrique Sáenz-Samper – Colombia
Carlos José González España – Colombia



国別の構成

欧州	北米・中南米	アジア・ロシア	中近東	オセアニア
ベルギー（３＋１）	アルゼンチン（１）	中国（３）	イラン（１）	オーストラリア（２）
フィンランド（１）	ブラジル（２）	日本（１）		
フランス（３）	カナダ（２）	ロシア（１）		
ドイツ（１）	コロンビア（１）	韓国（１）		
オランダ（１）	ペルー（１）	ベトナム（１）		
セルビア（１＋１）	USA（２）			
スペイン（２）	コロンビア（２）			
UK（２）				
ブルガリア（２）				
計 １８名	計 １１名	計 ７名	計 １名	計 ２名

3



In Com の特色

- メンバー 欧州・アメリ中心。アジアからは中国がシップリフトに関するWGを担当
なお委員はYP経験者、WG経験者などが多い。
- 内容 内陸水運に関する技術的、施設の検討に加え、近年は水運の計画・経済的分析などソフト系の内容もカバー。ただし、ソフト系のテーマに関しては、メンバーが集まりにくい傾向もあり、今後の課題。
- 他委員会との関係 内陸水運という性格上、環境委員会・レクリエーション委員会との共管WGも多い
- WG活動 3年が原則。ただし、最終報告を仕上げるのに時間を要するケースがみられる。
新しいTORを準備するのが委員会の主要な業務
- スマートリバー 2年に一度開催される、「SMART RIVER」（各国部会が開催）との連携が強い

In Com 83 の概要

- ・開催 2019年9月30日～29日@リヨン
- ・出席 15名（CCNR：ライン川航行管理委員会 含む）
- ・議題
 - ①EXCOMからの情報提供
 - ②各WGの進捗状況・課題説明（主な議題）
 - ③新たなWGに関する意見交換
内陸未利用水路活用、大規模河川開発、コンテナ輸送等
 - ④Smart River 準備状況
 - ⑤その他



4



SMART RIVER 2019 の概要

- ・開催 2019年10月1～3日 @リヨン 主催：PIANCフランス部会
- ・形式 テーマごとに複数会場（30枚程度）で論文を発表
（午前、午後、3日間）
 コンGRESの論文発表会に似た形式
 大講堂では アフリカ河川開発セッション開催
- ・アジアからの出席 中国は数編発表
- ・次回 2021年 10月 南京 →日本からの投稿をお願いします



In Com 84 の概要

- ・開催 1月28日～29日@ブラッセルPIANC本部
- ・出席 15名（CCNR：ライン川航行管理委員会 含む）
- ・議題 ①EXCOMからの情報提供
 ②各WGの進捗状況・課題説明（主な議題）
 ③新たなWGのアイデアに関する意見交換 環境対策（脱炭素化）、PPP/PFI事業、保安対策
 ④Smart River 準備状況
 ⑤その他 INCOMのプロモーション、レポート作成注意事項等
- ・次回 9月30日 ストラスブルグ（CCNR本部）の予定

5



WGの構成

No.	議長	内容	備考
1 2 5	河川情報サービス →今後も内容を更新し検討継続	米国	計画 レポート作成済
1 2 8	内陸水運のための代替的な技術・生物による河岸防護手段	ドイツ	技術 港空研参加
1 7 9	CEMT1992の新型船への対応	オランダ	技術 レポート作成済
1 8 9	水理構造物の疲労	オランダ	技術 レポート作成済
1 9 0	ゲート設備の腐食予測	Rebekah Wilson	技術
1 9 1	水理構造物の複合構造	インド	技術
1 9 7	水路における小型水力発電装置	アメリカ	技術
1 9 8	内陸水路に対する塩水侵入の緩和	オランダ	技術
1 9 9	内陸水運の健全なモニタリング技術	アメリカ	技術 港空研参加 MARCOM共管
2 0 1	南米のための内陸水運の分類の提案	CEPAL	計画 CEPAL:国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会

6



No.		議長	内容	備考
203	持続可能となる内陸水運	ドイツ	計画	
206	閘門式運河の研究のための国際委員会に関する最終報告書の更新	アメリカ	計画	2019年2月キックオフ
207	船舶昇降機における技術革新	中国	技術	2018年キックオフ
210	内陸水運に関するスマート SHIPPING	オランダ	計画	2019年1月キックオフ
216	内陸水運のマルチモーダルプラットフォームの計画の優良事例	ベルギー	計画	2019発足
219	持続可能な内陸水運のレクリエーション利用に関するガイドライン	(未定)	計画	2020年発足予定 メンバー募集中
228	低利用水路の研究	(未定)	計画	2020年発足予定 メンバー募集中
229	内陸水路の評価資料ガイドライン	オランダ (予定)	計画	2020年発足予定 メンバー募集中

7



INCOM活動への参加のお願い

日本は地形も急峻で、内陸の河川輸送は、限定的。
持続可能な経済活動を目指すうえで、環境負荷の少ない内陸水運の利活用は重要。

- 1) **WGへの参加** 内陸施設だけでなく、輸送計画などソフト分野のWG開催に軸足が移りつつある
＜今後発足の可能性のある分野＞

内陸コンテナ輸送、内陸輸送の脱炭素化、PPP事業
大規模河川輸送計画→ODA実施にも参考になる案件

1) Smart River 2021への投稿・参加

- ・アジア初のSmart River の開催
 - ・**アブストラクトは11月末**
 - ・発表分野（予定）
 - Waterway infrastructure, Inland waterway infrastructure, Smart shipping,
 - River system management, Logistics
- 積極的な投稿をお願いします

- ・2021年10月南京
- ・水理解析、埋没対策なども多い

8



SMART RIVER 2020 (10月19~20日@南京 中国)

Abstract submission

The call for abstracts is an opportunity offered to all waterways experts worldwide to showcase their knowledge, expertise and the latest technical innovations, while also raising them and their company's profile.

The submission of an abstract is required for panel as well as for poster sessions. Each abstract must be written in English and limited to 500 words. It should be based on one of the conference technical topics.

Abstracts shall be submitted online at [www.smartriver2021.com/abstracts/](http://www.smartriver2021.com/abstracts)

After a review supervised by the Scientific Committee, authors whose abstracts are accepted, will be expected to prepare either a short paper (max. 1500 words) or a poster, and a slide presentation. Accepted authors will be expected to attend the conference, pay the appropriate fees and make the presentation in person.

Key Dates

- Abstracts Due: 30 November, 2020
- Authors Notification: February 1, 2021
- Papers/Posters Due: 1 May, 2021
- Authors Notification (after review): 15 June, 2021
- Final Papers/Posters Due: 15 September, 2021
- Presentations Due: 15 September, 2021, followed by an interactive exchange with Session Chairs
- Conference: 19 - 22 October, 2021

Scientific Committee (core group)

Jianyun Zhang	NHRI/ Chinese Academy of Engineering
Philippe Rigo	University of Liege/ PIANC
Peng Wu	CCCC
Fabrice Daly	Cerema
Francisco Letier	PIANC
Claus Kunz	BAW

PIANC Smart Rivers 2021
Conference / Nanjing / China

19-22 October, 2021
Crowne Plaza Nanjing Jiangning, Nanjing, China
www.smartrivers2021.com

Technical Topics

Waterway Infrastructure

- i. Navigation Improvements in Rivers and Canals
- ii. Waterway Planning
- iii. Infrastructure Assessments
- iv. Health Monitoring
- v. Advances and Innovations in Navigation
- vi. Development and Future of Waterways
- vii. Recreational Boating and Nautical Tourism

Inland Navigation Structure

- i. Weirs, Locks and Shadles
- ii. Plan, Design and Optimization of NW Structures
- iii. Building Information Modelling (BIM)
- iv. Navigation Hydraulics
- v. Prototype Monitoring
- vi. Reliability, Maintenance and Resilience

Smart Shipping

- i. E-Navigation
- ii. River Information Service (RIS)
- iii. Ship Simulator
- iv. Cybersecurity
- v. Digitalization of Inland waterways and inland waterway transport
- vi. Physical Modelling and Numerical Modelling
- vii. Artificial Intelligence (AI) in Shipping
- viii. Big Data and Block Chain

River System Management

- i. Sediment Transport
- ii. Water Resources and River Morphology
- iii. Water Quality Improvements
- iv. Smart Dredging Technology and Machinery
- v. Digital River and Responses to Climate Change
- vi. River Ecological Civilization

Logistics

- i. Intermodal transport (waterway, rail and road)
- ii. Urban Port Developments
- iii. Policies and Regulations
- iv. Port Gateways and Cooperation

Special Sessions

- i. Yangtze River Golden Waterways
- ii. Xijiang River Golden Waterways
- iii. Young Professionals

2020 年 6 月 22 日(月)
PIANC-Japan 報告会
MarCom (海港委員会) 委員
(株)オリエンタルコンサルタンツ専務役員
樋口嘉章

2019 年度の MarCom の活動

○MarCom は年 2 回会議を行っており、2019 年度は 10 月にストックホルム、2020 年 1 月にブラッセルで集まった。ストックホルムでは開港へ向けて整備が進むノルディックポートを、またブラッセルではテルネウゼン閘門の建設現場を視察した。2020 年 9 月はモナコ（調整中）で開催される見込みである。（コロナ禍で通常の開催が出来なく可能性については現時点（5 月 22 日）では議論されていない。）

○8 年間 MarCom の委員長を務めてきたフランシスコ・エステバン（西）が 2019 年神戸の AGA で PIANC 会長に就任したことに伴い、後任の委員長にはエグバート・ファン・デル・ヴァル（蘭、ロッテルダム港）が就任した。また新たに副委員長が設けられ、ババック・バニジャマリ（イラン）が就任した。なお、セクレタリーは引き続きノエリア・ゴンザレス・パティンニョ（西）が務めている。

また、日本からは港湾空港技術研究所の高橋英紀地盤改良研究グループ長が新たに alternate member として MarCom に加わった。2020 年 1 月時点でのメンバーリストは別添 1 の通り。

○過去 5 年の各国からの出席状況は別添 2 の通りであった。メンバーに登録されていても出席の実績のないメンバーがいることがわかる。

○2020 年にはベルギー、スペインからの YP が交代、また小職が MarCom メンバーとなった 2010 年には既にメンバーであったイギリスの P. ハンター（ウォリングフォード研究所）が 2020 年 1 月(or 9 月のモナコ)で引退の意向を示すなど、世代交代を感じさせられた。

○技術委員会(MarCom, InCom, EnviCom, RecCom)の基本的な役割は、WG において検討してレポートをまとめるべき技術的課題についてのネタ探し・ToR の起草・WG の立ち上げ・WG の作業進行管理・WG レポートの承認といった一連の作業を進めることである。WG での作業の進行状況は別添に示すとおりである。

○各種のターミナルについての一連の WG を組織してきた他、過去に出版されたレポートについてレビューを行い、アップデートする必要があるものについて WG を立ち上げる取り組みを進めてきた。

○WG205（軟弱地盤における防波堤の設計と建設）、WG224（漁港計画）、WG225（港湾構造物の耐震設計ガイドライン）などは日本が主導的な立場で ToR を起草した。WG205

については北海道大学工学研究院の渡部要一教授が、WG225については港空研の野津厚地震防災研究領域長がWGの議長に就任している。

○PIANC-Japanの活動としてはそれぞれのWGの作業に参画することが重要であるが、なかなか作業・旅費の工面・英語での作業になること等負担が大きい。このため、過去においては選択的にしかWGメンバーを送り込めていなかった。しかし、近年はより積極的に日本からも参加している状況であり、議長についても上記のように日本から出している。(cf. 情報誌「港湾」2019年12月号)

○現在、活動中のWGは別添3の通りである。

○MarComの活動を広報する目的で、情報誌「港湾」19年9月号（国際バルク戦略港湾特集号）に『海港のドライバルクターミナルの設計原則』WG184レポートについて」を、また20年3月号に「ストックホルムの新港建設ノルヴィック・ポート」を投稿した。

List of Members of MarCom – January 2020

MEMBERS		
Chairman  Mr. Egbert Van Der Wal Manager Port Engineering Havenbedrijf Rotterdam N.V World Port Center Postbus 6622 3002 AP Rotterdam Phone : +31 (0)10 252 1764 E-mail : E.Wal@portofrotterdam.com www.portofrotterdam.com	Vice Chairman  Mr. Babak Banijamali Director of coastal Engineering division, Board of Directors & Deputy Managing Director Darya-Bandar Consulting Engineers (DBC) 9 Zabety St., Heravi Sq. Tehran 16677 39113 Iran Phone : +98 21 2251 6834 Mob : +98 912 102 9884 E-mail : Banijamali.Babak@gmail.com	Secretary  Mrs. Noelia González Patiño Head of Marine Works Technical Directorate DRAGADOS Avenida del Camino de Santiago 50 28050 Madrid Spain Phone: +34 91 703 82 34 Mobile : +34 608 542 167 E-mail : ngonzalezp@ggravityeng.com www.dragados.com
Member  Mr. Arjan van der Weck Royal Boskalis Westminster/Hydronomic Rosmolenweg 22 Postbus 209 Papendrecht 3350 AE The Netherlands Phone: +31 (0)78 69 69 837 Mobile : +31 (0)6 516 14 898 e-mail: a.vanderweck@boskalis.nl	Member  Mr. P.D. Hunter HR Wallingford Howbery Park Wallingford Oxon, OX10 8BA United Kingdom Phone : +44 1491 82 2353 Mobile : +44 7774 620694 E-mail : p.hunter@hrwallingford.co.uk	Member  Mr. H.F. Burcharth Professor Dr. Techn. Dep. of Civil Eng. Aalborg University Kong Georgs Vej 13 9000 Aalborg Denmark Phone: +45 214 20522 E-mail: hansburcharth@gmail.com
Member  Mr. Tore Lundestad Port Director Borg Havn IKS Port Authority of Fredrikstad and Sarpsborg Øraveien 27 NO-1630 Gamle Fredrikstad Norway Phone: +47 69 35 89 01 Mobile: +47 91 11 72 02 E-mail: tore.lundestad@borg-havn.no www.borg-havn.no	Member  Dr. Ir. Koen Van Doorslaer Coastal engineer & design manager DEME group Haven 1025 – Scheldedijk 30 2070 Zwijndrecht Belgium Phone: +32 3 250 57 52 Mobile: +32 473 38 77 45 E-mail: Van.Doorlaer.Koen@deme-group.com www.deme.be	Member  Mr. Yoshiaki Higuchi Managing Executive Officer, Oriental Consultants Co.,Ltd. Sumitomo Fudosan Nishi Shinjuku Building No.6, 3-12-1, Honnmachi, Shibuya-ku, Tokyo, 151-0071, Japan Japan Phone: +81 3 5549 9575 E-mail: higuchi@oriconsul.com
Member  Mr. Pierre Aristaghes Marine Works Technical Director BOUYGUES TP France Phone: E-mail: p.aristaghes@bouygues-construction.com	Member  Mr. Andrea Ferrante Ministry of Infrastructure and Transport Via Nomentana 2 00161 Roma Italy Phone: +39 0 6 44125242 E-mail: andrea.ferrante@mit.gov.it	

Member  Mr. Ron E. Heffron COWI 2355 Main Street, Suite 210 Irvine, CA 92614 USA Phone: +1 (510) 8398972 Mobile: +1 (562) 5473916 E-mail: RDHN@cowi.com	Member  Mr. Rafael Escutia Port Insight Consulting Pl. Tirant lo Blanc, 3-6º-1ª 08005 - Barcelona Spain Phone: +34 932 213 304 Mobile: +34 667 571 949 E-mail: escutia.r@portinsight.com cirera@portel.com	Member  Mr. Mattias Sandell Technical Manager Port of Stockholm P.O. Box 27314 SE-102 54 Stockholm Sweden Phone: +46 8 6702720 Mobile: +46 70 770 27 20 E-mail: mattias.sandell@stockholmshamn.se
Member  Mr. Peter Fountain Consultant Australia Phone: +61 412 511 285 E-mail: peterfountain01@gmail.com	Member  Mr. Mohammad Reza Allahyar Head of Coastal and Port Engineering Ports & Maritime Organization of Iran 6th Floor, Ports and Maritime Organization Building Shahidi St. Haghani Exp'way Vanak Square Tehran Iran Phone : +98 21 84932261 E-mail : allahyar@pmo.ir mallahyar@yahoo.com	Member  Mr. Sohyun Kwon Korea Phone: +82-10-3347-8237 Email: bin6400@naver.com
Member  Mr. Héctor Escobar Calle 6 8-12 Av. Simón Bolívar Buenaventura Colombia E-mail : yem.ingenieria@gmail.com	Member  Mr. Carlos Gines Port Consultant San Juan 533 CP 8000 Bahía Blanca/Buenos Aires Argentina Phone: +54 9 291 5734898 E-mail : ingcarlosgines@gmail.com	Member  Mr. Constante T. Fariñas AGM for Engineering Philippines Ports Authority 6/F Corporate Headquarters Bonifacio Drive, South Harbour Manila 1018 Philippines Phone: (0632) 954-8800 E-mail: ctfarinasjr@ppa.com.ph
Member  Mr. Simo Kerkelä Finnish Transport Infrastructure Agency Head of Unit P.O. Box 33, FI-00521 Helsinki Phone: +358 29534 3354 Mobile: +358 40834 0414 E-mail: simo.kerkela@ftia.fi	Member  Mr. Patrick Verhoeven Email: patrick.verhoeven@iaphworldports.org	

<u>ALTERNATE MEMBERS</u>		
Alternate U.S.  Mr. Richard Styles Research Oceanographer U.S. Army Engineer Research and Development Center 3909 Halls Ferry Road Vicksburg MS 39180 USA Phone: 601-634-4065 Mobile: 601-415-9930 E-mail: Richard.Styles@usace.army.mil	Alternate Australia  Mr. Scott William Keane Managing Director Keane Marine & Management Australia Mobile: +61 408558167 E-mail: scott@keanemarine.com	Alternate Colombia  CN. D. Juan Francisco Herrera Subdireccion de Marina Mercante (SUBMERC) Carrera 54 No- 26-50 Colombia E-mail : jherreral@dimar.mil.co
Alternate Spain  Mrs. Noelia González Patiño Head of Marine Works Technical Directorate DRAGADOS Avenida del Camino de Santiago 50 28050 Madrid, Spain Phone: +34 91 703 82 34 E-mail : ngonzalezp@ggravityeng.com www.dragados.com	Alternate Argentina  Mr. Marcelo Peyregne Engineering Manager General Port Administration Puerto Buenos Aires Avenida Ingeniero Huergo 431 CP1067 Buenos Aires Phone: +54 11 4307-0444/0059/0509 Mobile: +54 11 4191-0093 E-mail : mpeyregne@puertobuenosaires.gob.ar	Alternate Philippines  Mr. Carlito M. Castillo Department Manager, Port Construction & Maintenance Philippines Ports Authority 4/F Corporate Headquarters Bonifacio Drive, South Harbour Manila 1018 Philippines Phone: (0632) 954-8800 E-mail: cmcastillo@ppa.com.ph
Member  Mr. Hidenori Takahashi Head of Soil Stabilization Group Geotechnical Engineering Division of Port and Airport Research Institute (PARI) National Institute of Maritime, Port and Aviation Technology (MPAT) Japan Phone: E-mail: takahashi-h@p.mpat.go.jp	Member  Mr. Olivier Piet Assistant Manager Division for water, Sea and Waterways CEREMA(Centre For Studies and Expertise on Risks, Environment, Mobility, and Urban and Country planning) CS 60039 - 60280 Margny lès Compiègne France Phone: +(33) 3 44 92 60 15 E-mail: Olivier.piet@cerema.fr	

<u>YOUNG PROFESSIONAL MEMBERS</u>		
YP Finland  Mr. Kim Andersson-Berlin Arcus Ltd Linnankatu 16 FI-20100 TURKU Finland Mob: +358 503 799 005 Fax: +358 2233 0050 E-mail: kim.andersson-berlin@arcus.fi	YP U.K.  Mr Michael Grace Development Engineer Port of Dover Phone: E-mail: Michael.Grace@doverport.co.uk	YP U.S.  Mr Christopher Thomas Senior Coastal Engineer Bechtel Oil, Gas & Chemicals 3000 Post Oak Blvd. Houston TX 77056 USA Phone : +1 (713) 235 3568 Mob : +1 (713) 245 6903 E-mail : Cethoma1@bechtel.com
YP Spain  Mrs. Sara Iglesias Acciona Ingeniería Madrid España Spain Phone: Mob : +34 636 123 831 E-mail: sara.iglesias.t@gmail.com	YP Philippines  Mr Christopher H. Ornum Principal Engineer Philippines Ports Authority 4/F Corporate Headquarters Bonifacio Drive, South Harbour Manila 1018 Philippines Phone: (0632) 336-5157 E-mail: chornum@ppa.com.ph	YP Belgium  Mr. Filip Mortelmans Belgium Phone: + Mobile: + E-mail:
YPCom Observer:  Mr. Ed Backlund Marine Engineer Hatch Infrastructure 320 Fifth Avenue, Suite 406 New York, NY 10001 USA Phone : +1 332 255 6069 Mob : +1 607 372 9181 E-mail : edward.backlund@hatch.com		

List of Members		January 2020	October 2019	January 2019	October 2018	January 2018	September 2017	January 2017	September 2016	February 2016	September 2015	February 2015
		28th-29th	3rd -4th	29th-30th	16th	30th-31st	11th-12th	31st-1st	19th-20th	2nd-3rd	28th-29th	3rd-4th
Members												
Mr Egbert Van der Wal		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
Mr H.F. Burcharth		X	X		X	X		X	X	X	X	X
Mr A. Van der Weck			X		X	X		X	X	X	X	X
Mr P.D. Hunter		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
Mr Andrea Ferrante					X							
Mr Tore Lundestad		X	X	X	X	X		X	X		X	X
Mr Koen Van Doorslaer		X	X	X	X	X	X		X		X	X
Mr Pierre Aristaghes			X	X	X		X			X	X	
Mr Yoshiaki Higuchi		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
Mr Ron E. Heffron			X	X			X	X	X	X	X	X
Mr Rafael Escutia		X		X	X	X	X	X		X		X
Mr Mattias Sandell		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
Mr Mohammad Reza Allahyar												X
Dr Iksoon Cho												
Mr Héctor Escobar												
Mr Peter Fountain			X		X	X	X	X	X			X
Mr Carlos Gines			X		X		X	X	X		X	X
Mr A. Guzmán										X	X	
Mr Simo Kerkelä					X						X	X
Mr Patrick Verhoeven								X			X	X
ALTERNATE Members												
Mr Richard Styles												
Mr Scott Willian Keane												
CN. D Juan Francisco Herrera												
Mrs Noelia González Patiño			X	X	X		X	X	X	X	X	
Mr Marcelo Peyregne												
Mr Reynand Parafina										X		
Mr Babak Banijamali			X	X				X				
Mr Olivier Piet												
Mr. Hidenori Takahashi												
YP Members												
Mr Kim Andersson-Berlin			X									
Mr Christopher Thomas					X							
Mrs Sara Iglesias						X		X			X	
Mr Christopher Ornum										X		
Mr Michael Grace		X	X	X	X	X	X					
Mr Ed Backlund					X							
		9	16	12	18	12	12	15	12	14	16	15

**Previous members*

MarCom Active Working Groups Time Schedule – Meeting 2019-2

Nr:	Working Group:	Chair:	Mentor:	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	Observations
145	Berthing Velocities in Sheltered Environments	Van de Wal	Van der Weck						P			P	S			New leader to close publication. Must be agreed by the whole group
153B	Recommendations for the Design and assessment of Marine Oil, Gas and Petrochemical Terminals	Heffron	Heffron							A, K			P	S		Expect to finish by end 2021
164	Upgrade of Port Terminals by increasing dredged depth	Richter	Secretary		A		K1		K2			P, S				Estimated draft report summer 2019
167	Design of terminals for RoRo and RoPax vessels	Osborn	Hunter		A		K						P, S			Estimated draft report January 2020
171	Ship Handling Simulation Dedicated to Channel and Harbour Design	Böttner	Secretary			A	K						P, S			Estimated draft report summer 2020
186	Mooring of Large Ships at Quay Walls	McBride	Hunter					A	K				P, S			Expect presentation to MarCom in summer 2020
187	Protection of Undersea Pipelines and Cables in Navigable Areas	Brian	Heffron					A	K				P, S			New Chairman February 2018
194	A Framework for Early Contractor Involvement in Infrastructure Projects	Willems	Van Doorslae						A	K			P, S			Expect presentation to MarCom in September 2020
199	Health monitoring for Port and Waterway structures	Smith	Heffron							A, K			P, S			Working
200	Recommendations for the design and assessment of SPM or MPM facilities	Sanchidrián	Escutia							A	K		P, S			Expect presentation for January 2020
205	Design and construction of breakwaters in soft seabeds	Watabe	Higuchi							A		K		P	S	Kick off Meeting 18 th September 2019
208	Planning for Automation of Container Terminals	Ashebir	Heffron								A	K		P	S	Kick off Meeting in January 2019
211	Update of WG 33 – Guidelines for the design of fender systems	Broos	Van der Weck								A	K			P, S	Kick off Meeting 21-22nd March 2019 in Rotterdam
212	Update of WG 24 – Criteria for acceptable movement of ships at berths	Yavary / Jong	Heffron								A	K		P	S	Kick off Meeting 29-30 th April 2019 in Brussels
213	Design guidelines for marine multipurpose terminals										A	K		P	S	Chairman to be nominated
215	Accidental Impacts from Ships on Fixed Structures (Update of InCom WG19)	Turley	Hunter								A	K		P	S	Kick off Meeting 10 th September 2019 in Brussels
224	Planning of Fishing Ports														P, S	In formation
225	Seismic Design Guidelines for Port Structures											A	K		P, S	In formation

A = WG approved by ExCom K = Kick Off Meeting P = Presentation draft Report in MarCom S = Send final report to Brussels

PIANC

The World Association for
Waterborne Transport Infrastructure



EnviCom 活動報告 2020年6月

深海 正彦
日鉄エンジニアリング

"Setting the course"



【EnviComの目的】

- 航行の持続性と環境リスクを対象とし、
PIANCのすべての活動分野を横断的に支援
- 具体的な対象事項は、自然災害、生態系、
環境リスク管理、環境に敏感な地域での浚
渫、持続可能な港湾、炭素管理、気候変動
への適応、レジリエンス等。

"Setting the course"



【EnviComの基本精神】

< WwN (Working with Nature) 自然との共生 >

○必要プロジェクトの計画・実行が前提
(単なる環境保護ではない)

○プロジェクトの現場での実行段階に
環境影響を回避したり緩和する方向を
目指すのではなく

○より早いプロジェクトの計画段階に
積極的に環境の保全修復や向上をもたらす
観点を盛り込み

○その結果
プロジェクトと自然の両者がお互い
益となる方向で目的を達成

“Setting the course”



【開催の概要】

○年二回開催

○場所と時期

一回はBrusseles
他の一回は別途決定
時期は概ね1月と9月頃

○2019年度は以下の二回開催

1. No. 51 France, Lyon

29.Sep～30.Sep.2019

参加者:15名程度

・ Topic

WwNの取り組み事例として

サウイェール運河修復事業等を視察



【PIANC 本部】



2. No. 52 Brusseles, Belgium

28.Jan～29.Jan.2020

参加者:15名程度

【開催状況】

“Setting the course”



【EnviComメンバー】

○ 2020年6月現在

26名（17ヶ国）、7関係団体が参加

【Chairman】

Dr. Todd Bridges



US Army
Corp of Engineers

【参加国】

Argentina Australia Belgium
Colombia France Finland
Germany India Iran
Japan Netherland Norway
Philippines Spain South-Korea
UK USA

【Secretary】

Mr. Edword Brauer



US Army
Corp of Engineers

【関係団体】

CCNR CEDA EUDA
IADC IAPH INE
Ports Australia

"Setting the course"



【国別メンバー構成】

（単位：人）

欧州	北米・中南米	アジア	中近東	オセアニア
ベルギー：2 イギリス：2 フィンランド：1 フランス：1 ドイツ：1 ノルウェー：1 オランダ：1 スペイン：3	アメリカ：4 アルゼンチン：1 コロンビア：1	フィリピン：2 インド：1 日本：1 韓国：1	イラン：1	オーストラリア：2
小計：12	小計：6	小計：5	小計：1	小計：2

"Setting the course"



【最近のメンバーの動向分析】

○メンバー国の現状 ⇒ 【欧米諸国が多い】

- ・全17ヶ国中11が欧米諸国

○メンバーの現状 ⇒ 【欧米諸国メンバーが多い】

- ・欧米諸国メンバーは全26人中18人
- ・参加者最多はUSAの4名（一時期5名:49th迄）
- ・アジアは 日:1、韓:1、フィリピン:2、インド:1

○メンバーの推移 ⇒ 【欧米諸国の台頭】

- ・49th, スペインが1名追加により3名になると共に
オランダからも1名参加
- ・52th, イギリスが1名追加により2名となった。
⇒ 欧州の増
- ・50thより南米Argentinaより1名が加わった。
⇒ 米大陸の増

“Setting the course”



【ナショナルセクションの動向分析】

○Spain sectionの存在感増

メンバーの増だけでなく以下の取り組み

- ・Mediterranean Days 2018.10のSpain開催
- ・2019.10 Spain Huelvaにて
「環境の持続可能性と港湾管理」の第1回WSを開催
- ・53th EnviCom開催地としてSpain カナリア諸島を提案

○南アメリカ、中央アメリカからのメンバー参加への期待感の増？

- ・現在はアメリカ大陸に於いて北アメリカがメイン。

Argentina、Colombiaがメンバーなるも

後者は不参加

※ 欧州:米＝12:6（人数比）

“Setting the course”



【委員会の主な議論】

- Ongoing & New WGのフォロー
- EnviComへの理解促進 & WwNの戦略的展開
⇒EnviComの活動、WwNの考え方があまり知られていない。
⇒【潜在的関係者の発掘と、LIST作成⇒PR & Recruit】
- WwN賞の表彰制度に関する選考手続き
⇒前回コンGRESにて採用した手法に課題
⇒【明確な手続き等の確立とHPでのPR】

“Setting the course”



【既設WGの活動状況】

WG ナンバー	名称	キック オフ	現状活動	レポート 完成予定	日本人 WGメンバー
170	航路及び港湾施設建設時の海亀及び海棲哺乳類保護の最適事例	2014	検討中	2020以降	
174	港湾に於ける持続性に関する報告	2014	検討中	2020以降	
175	水運関連構造物プロジェクトのための環境危機管理に関する実践的指針	2015	---	<u>完成</u>	
176	WwNを水運関連構造物プロジェクトに適用する場合の指針		---	<u>完成</u>	
* 178	海洋及び内陸水運施設のための気候変動適応策	2015	---	<u>完成</u>	

“Setting the course”

* はPTGCC (Permanent task Group on Climate Change) 下のWG



【既設WGの活動状況】

WG ナンバー	名称	キック オフ	現状活動	レポート 完成予定	日本人 WGメンバー
188	港湾・水運関連構造物の カーボン・マネジメント	2016	――	完成	桑江朝比呂 (港空研)
*193	海上・内陸水運システム の復元力	2016	――	完成	
195	水運関連構造物プロジェ クトに対する生態系サー ビスの応用の紹介	2017	査読中	2020以降	
214	堆積土砂の有効活用	2019	第3回WG 2020.1	2021頃	細川真也 (港空研) 野津光夫 原 隆 (不動テトラ)
218	水運関連構造物にとって の侵入外来種の意味	2020	1月初会合	2022頃	

* はPTGCC (Permanent task Group on Climate Change) 下のWG



【注目すべきWG】

WG214 Beneficial sediment use (堆積土砂の有効活用)

○1992年に作成された、同様趣旨ガイドラインの見直し。

○WGの開催状況

⇒2019.1.31～2.1 ブリュッセルにてキックオフ

⇒レポート公開予定は、2021年

⇒日本の実績と知見が期待されており、以下を掲載予定

・新北九州空港でのPDF工法による埋立地容量確保

・瀬戸内海周南市大島での海浜環境整備対策

◎日本からのWGメンバーは以下の3名

港空研 : 細川真也 主任研

不動テトラ: 野津光夫 部長

不動テトラ: 原 隆 部長

“Setting the course”



WG214 第3回WG at Bruxelles



【新設WGテーマ】

【環境への影響】【WG226】

- A Guide for Assessing and Managing Effect of Underwater Sounds from Navigation Infrastructure Activities
(航行インフラに係る水中音の影響への対応に関する指針)

【堆積物、土砂】【WG227】

- A Guide for Assessing and Managing Environmental Restrictions on Dredging and Disposal Operations
(浚渫工事の環境規制への対応に関する指針)

【その他】【WG230】

- How to Attract Green Funding for Nature Based Navigation Infrastructure
(環境インフラへの投資意欲を向上させるための検討)

“Setting the course”



【最近のトピック】 【COP25におけるPIANC気候変動宣言の発表】

COP25「レジリエンスに関する円卓会議」
(2019.12.10開催)の場でPIANCのエステバン会長(Mr.Francisco Esteban Lefler)より「PIANC気候変動宣言」が発表された。



【右端: エステバン会長】

※ COP25:気候変動枠組条約第25回締約国会議

“Setting the course”



【宣言の骨子】

- ① 気候変動は、重大なリスクではあるものの、現在及び将来の前向きで積極的な対応により、リスクは軽減されビジネスチャンスをもたらす可能性がある。
- ② 必要なことは、
 - ・ 温室効果ガスの排出削減に向けた水上輸送インフラの所有者と運用者夫々の役割の認識
 - ・ レジリエンスの強化
 - ・ 港湾や水上輸送インフラとその運営の気候変動影響への緊急な適応

“Setting the course”

※ 詳細については 情報誌「港湾」 令和2年2月号参照



【補足：新型コロナウイルスの影響】

- 今後のEnviCom開催予定は今のところ未定。
- 今秋の委員会開催の調整候補地であったスペインについては、調整作業がサスペンド。
- 当面はインターネットツール等を積極活用した開催が推進されていくものとする。

(5月時点)



"Setting the course"



以上 EnviComの報告でした。



"Setting the course"



レクリエーション水路委員会
(RECREATIONAL NAVIGATION
COMMISSION)
2019年度 RecCom活動報告

RecCom委員
山下 雅人
(一社)日本マリーナ・ビーチ協会
理事
2020/06/22

RecComメンバー

- 委員会メンバー 20カ国 総計32名 (2020年1月末現在)
- CHAIRMAN: MR ESTEBAN BIONDI (ARGENTINA)
- SECRETARY: MR NICOLAS PISARELLO (USA)
- VICE CHAIRMAN: MR MICHIEL DE JONGLLO (NETHERLANDS)

Country	Number	Country	Number	Country	Number
France	4	Australia	1	Japan	1
USA	4	Belgium	1	Norway	1
Argentina	2	China	1	Sweden	1
Korea	2	Colombia	1	UAE	1
Monaco	2	Deutschland	1		
Netherlands	2	Estonia	1		
Spain	2	Iran	1		
UK	2	Italy	1	20 Country	32

第73回 RECCOM会議(#73)

- 日時:2019年1月30日 9:00～
- 開催場所:ブリュッセル ベルギー
- 参加者:7カ国計8名の参加;スペイン(2)、以下1名アルゼンチン、イタリア、イギリス、韓国、オランダ、エストニア

第74回 RecCom会議(#74)

- 日時:2019年9月28日 10:00～
- 開催場所:フランス リヨン
- 参加者:7カ国計12名の参加;スペイン(2)以下1名;アメリカ、イギリス、イタリア、エストニア、オランダ、日本、ノルウェー、フィンランド、フランス、ポルトガル

#74 議事の概要(1)

- 1. 委員長代理の挨拶
- 委員長代理として、MRTIM BECKETT から新しいメンバーとゲストの紹介
- 2. RECCOM秘書の空席について
- 秘書不在のため、委員会の準備などに滞りあり
- 3. RecComの活動について
- アムステルダムでのRAIで11月19日～20日に開催されるMETSカンファレンスに先立ち、マリーナデザイントレーニングプログラ(MDTP)のテクニカルコース開催予定ム

議事の概要(2)

- WGの紹介
- WG 217 (プレジャーボートの代替燃料による推進システムがマリーナの設計・管理に及ぼす影響)
- WG 220 (レクリエーション施設におけるポンプ・アウトシステムの計画・設計・運用ガイドライン)
- WG 221 (レクリエーション・ボートの傾斜船台設計ガイドライン)
- WG 222 (マリーナにおける浮き防波堤設計ガイドライン)
- WG 223 (レクリエーション・マリーナにおける漁業コミュニティの意義ある包摂～計画ガイドライン)

議事の概要(3)

- 4. ワーキンググループの進捗状況(#74、#75会議)
- WG 147:「レクリエーション航行と商港との関係管理のためのガイドライ」
- JANUARY 17, 2020 発行
- WG148:「持続可能なレジャー用航路施設」
- EnviCom協力でRecComとICOMIAの共同WG
- TOR:2009 業務開始:2010 DRAFT APPROVED: NAY (2016)
RE-LAUNCH: 2018 出版予定:2021

議事の概要(4)

- WG 149:「マリーナの設計PIANCガイドライン」
- TOR: 2009/11 - セットアップ: 2010 - 開始: 2010 - ドラフト承認:
パート 1 ・パート 2: 2016出版 パート 4: 2018出版済
- パート 3 とパート 5 作業進行中、メンバー要請あり

- WG 168:「ヨット用の一点係留施設の設計」
- TOR: 2013/2 業務開始: 2014/2 出版予定: 2020年初頭
- 最終ドラフト提出済

議事の概要(5)

- WG 169:「マリーナにおける火災検知と管理」
- TOR: 2013/2 業務開始: 2014/2 出版予定: 2020年
- 議長不在、レビュー用に配布する正式なドラフトなし

- WG 182:「水面下音響イメージング」
- TOR: 2015/2 業務開始: 2015/7 出版予定: 2020
- RECCOM、MARCOM、INCOMの共同WG
- ドラフト承認は2017年

議事の概要(6)

- WG202:「ウォーターフロントプロジェクトのRNI(RECREATIONAL NAVIGATION INFRASTRUCTURE)の影響」
- PIANC RECCOM – ICOMINGジョイントWG
- TOR:2017/2 業務開始: 2018/01 出版予定:2021
- WG209:「レクリエーションナビゲーションインフラのための AIS データの使用のための推奨事項」
- MR LAURENT MONSAINGEON 議長、キックオフ未完
- TOR:2018/05 業務開始: 2019/10 出版予定:2021
- 2019年後半にRECCOMに報告書の枠組みを共有予定

議事の概要(7)

- WG203:「持続可能な内陸水運」
- ドラフトレポートにコメント予定
- WG217:「プレジャーボートの代替燃料による推進システムがマリーナの設計・管理に及ぼす影響」
- TOR:2019/3 電気ボート用マリーナチャージステーション
- メンバー要請中

議事の概要(8)

- WG219:「GUIDELINES FOR IW INFRASTRUCTURE TO FACILITATE TOURISM観光を促進するためのIWインフラのガイドライン」
- INCOM/ENVICOM/RECCOM
- WG220:「レクリエーション施設におけるポンプ・アウトシステムの計画・設計・運用ガイドライン」
- メンバー要請中

議事の概要(9)

- 5. 新規WG
- CLIMATE CHANGE ADAPTATION
- PROPOSED TOPICS WITH NO TOR
- 6. その他の事業
- WGLレポートで自然と気候変動に関する質問有
- ドバイで開催されるICOMIAのワールドマリーナカンファレンスで、RECCOMとしてレクリエーションヨットにおけるAISの使用、海洋産業(フランシスコ・サリアス)におけるブロックチェーン技術のテーマの発表予定

KOBE AGA RecComオープンミーティング(1)



- 日時:2019年6月4日、9時～12時
- 会議内容:4テーマ(タイトル別紙)
- 参加者:約40名
- RECCOM委員長の挨拶



- **KOBE AGA RecComオープンミーティング4テーマ**
- ①“MARINAS IN JAPAN – CURRENT CONDITIONS AND PLANS” MR. SADA O SUWA – WINDWARD OCEAN CLUB
- ②“FISHERINAS IN KOBE AREA – THE JAPANESE EXPERIENCE” MR. MASA AKI AMANO – AGRICULTURE AND FISHERIES PROMOTION DIVISION, ECONOMIC AND TOURISM BUREAU, KOBE CITY GOVERNMENT
- ③“MARINA FIRE PROTECTION SYSTEMS PROGRESS OF KOREAN REPORT” MR LEE, WOOK – JAE, RECCOM KOREA
- ④“HOW CAN PIANC RECCOM SUPPORT THE REGIONAL MARINA INDUSTRY ? ” ALL PARTICIPANTS

国際協力委員会の活動状況について

INTERNATIONAL CO-OPERATION COMMISSION



2020年6月22日

阪神国際港湾株式会社

小野 憲司 (k-ono@hanshinport.co.jp)



国際協力委員会（CoCom）の主なミッション

- A) PIANC会員 (特に発展途上国会員) 拡大の支援。
- B) 水上輸送のメリットや内陸水運、海洋航路、港湾の技術的、科学的発展に関する情報をPIANC国内部会を有しない国に普及するための手段や方法の構築。
- C) 地域グループを通じて、発展途上国の港湾・航路専門家と先進国の専門家の交流を拡大。
- D) 発展途上国の港湾・航路専門家の専門知識強化の機会の創出。(技術セミナーの開催、4年に1度開催されるPIANC-COPEDECの支援 等)

CoComの構成とメンバー

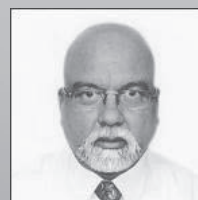
A) 共同議長

Edward Schmeltz (米国)

Akula Rao (インド)



Edward Schmeltz



Akula Rao

B) 4小委員会 (CoCom関係ワーキンググループ運営、 会員拡大、COPEDEC支援、発展途上国専門家支援)

C) 15か国から、委員19名、代理委員3名、オブザーバ2名、 ヤング・プロフェッショナル1名が登録。

[Member List]

- Edward Schmeltz, USA - CoCom Co-chairman
- Akula R. Rao, India - CoCom Co-chairman
- Peter De Wolf, Belgium - Secretary
- Jefferson Vianna Bandeira, Brazil
- Kenji Ono, Japan
- Jean-Marc Deplaix, France
- Ron Cox, Australia
- Kevin Knight, USA
- Abbas Sarmad, USA (Alternate)
- Elizabeth Follosco - Philippines
- Hector Miale - Philippines
- Hartmut Brühl, Germany
- Michaël Fastenbauer, Austria
- Rogelio Gordon - Panama
- Ronald Stive, The Netherlands
- Geert Van Cappellen, PIANC Secretary General
- Freddy Wens, Belgium - COPEDEC IOC Chair
- Enrique de Faragó Botella - Spain
- José-Luis Monso de Prat, Spain (Alternate)
- Young-Min Oh, South Korea
- Daphne Thoon - YP, Belgium
- Razzazan, Iran
- Mohammad Hossein Nemati, Iran (Alternate)
- Han Ligteringen - Observer
- Lillian Almodovar - Observer

CoComの活動状況と課題

A) PIANC本部における定例CoCom会合 (2020年1月29日)

B) 現下の取り組み:

- ① PIANC加盟国拡大に向けた会員国の勧誘及び国内部会設立支援 (重点地域: 東南アジア、南米、アフリカ等) → 2019年はカンボジアセミナーの開催等
- ② 地域グループ活動の促進
- ③ 次回PIANC-COPEDEC会議の開催準備
→ 2020年11月フィリピン国マニラ市における会合の開催準備中。
- ④ CoCom行動計画の実施状況フォローアップ

C) 課題:

- ① CoComのミッション・活動計画の見直し (2010年のExCom戦略見直しに絡んで)
- ② PIANC-COPEDEC会議の見直し (開催頻度、規模縮小、費用の削減、国際組織委員会の構成等の見直し等)
- ③ CoCom組織の見直し: 開発途上国からの委員の参加促進 (現在4か国6名)、客員メンバー (Corresponding member) の確保 (現在0名)、
- ④ CoCom 活動活性化: 開発途上国における会合開催、コアメンバーの高齢化 等

PIANC-JAPAN のCoCom 関連活動（報告）

PIANC-カンボジアのセミナー開催を主導

- ① 場所・期間：プノンペン市プノンペンホテルにおいてPIANC-カンボジア セミナー（2019年10月24-25日）を開催。
- ② セミナー概要：基調講演、PIANC紹介、セッション（河川舟運、大水深港）、パネルディスカッション（別添Flyer参照）
- ③ PIANC側参加者
 - ・ PIANC本部：林田副会長、カペレン事務局長
 - ・ 国交省：平澤首席国際調整官
 - ・ CoComメンバー：ウェンズ、ディユプレ、リタリンゲン、小野
 - ・ 日本部会メンバー：東山事務局長、ヘム・ラブラム（東洋建設・YP-Com）
 - ・ その他：池町（一社）港湾荷役機械システム協会研究主幹

今後のCoCom活動予定

- ① 国内部会設立支援：カンボジア、シンガポール
- ② 新規会員勧誘：ミャンマー（情勢調査、CoComへの報告・働きかけ提案）
- ③ CoCom定例会合出席：2020年秋、2021年冬（ブリュッセル）
- ④ 第10回PIANC-COPEDEC運営支援：2020年11月16~20日@マニラ

1st PIANC-Cambodia Seminar Flyer

1st PIANC - Cambodia Seminar
International workshop on Waterborne Transport Infrastructure Development and Management.

Date: 24th and 25th October 2019
Venue: Crystal Ballroom, Phnom Penh Hotel, Phnom Penh

Keynote lecturers
Prof. Han Ligteringen, Emeritus Professor, Delft University of Technology and
Mr. Bang Vuthy, Deputy Director General, GDRMP, MPWT

Resource Speakers
Mr. Freddy Weng, PIANC-CoCom / Mr. Jean-Marc Deploix, PIANC-InCom WG1.1 /
Mr. Madoka Ikemachi, JACMS / Messrs. Sich Phitcheayrithy, Ros Sophomma, Sou Phally, GDWMP,
MPWT / Ms. Hui Phanin, PPAP / Messrs. Men Chan & Souk Kol Chenda, PAS / Dr. Ham Ramrav,
Toyo Construction Corp. (PIANC-Japan)

Session Chair: Dr. Kenji Ono, PIANC-CoCom and Kobe-Osaka Int'l Port Corporation

Contractors: Mao Vichetka Tel: (855) 12 692 911, e-mail: maovichetka@yahoo.com

Program of PIANC-Cambodia 1st seminar

Day 1 (24th October 2019)
8:30 Registration
9:00 Opening
9:05 Opening address Mr. Hiroshi Hayashida, PIANC Vice-President
9:15 Welcome speech Mr. Bang Vengsun, Secretary of State, Cambodian Government
9:30 PIANC general briefing Mr. Goert Van Cappellen, Secretar General, PIANC
10:30 Coffee break
10:45 Keynote lectures
Topic 1: Port and shipping development in the 21st century. Prof. H. Ligteringen, DUT
Topic 2: National waterborne transportation system in Cambodia. Mr. Bang Vuthy, MPWT
12:30 Lunch

(Technical session 1: Inland water way infrastructure and transport)
14:00 Opening
14:05 Topic 1: The Master Plan for Waterborne Transport on the Mekong River System in Cambodia. Mr. F. Weng, PIANC
14:50 Topic 2: Activities for transport facilitating on Mekong River Navigation Mr. Sich P., GDWMP
Activities for improving Infrastructure of Inland Waterway Transport Mr. Ros S., GDWMP
15:30 Coffee break
16:00 Topic 3: Design Guidelines for Inland Waterway Dimensions. Mr. J.-M. Deploix, PIANC
16:45 Discussions and summary
16:55 Closing of day 1

Day 2 (25th October 2019)
(Technical session 2: Deep water seaport development, operation and management)
9:00 Opening
9:05 Topic 4: Modernization of Container Port Operation and Management. Mr. M. Ikemachi, JACMS
9:50 Topic 5: Activities for improving Port Administration Mr. Sou P., GDWMP
Activities for improving Port Management and Operation of Phnom Penh Autonomous Port (PPAP) Ms. Hui P., PPAP
Activities for improving Port Management and Operations for Sihanoukville Autonomous Port (PAS) Messrs. Men C. and Souk K.C., PAS
10:30 Coffee break
11:00 Topic 6: Deep-sea Port construction and maintenance techniques. Dr. R. Hem, PIANC-Japan
11:45 Discussions and summary
11:55 Closing of technical session 2
12:00 Lunch
13:00 Panel discussion: Global trend and new horizon of port and waterborne transport
Chaired by Prof. Ligteringen
14:45 Summary of the seminar Mr. G.V. Cappellen
14:55 Closing remarks Mr. Bang Vengsun, Secretary of State
15:00 Post seminar networking (Until 16:00)

Supported by: 国土交通省, PJA, 日機エンジニアリング株式会社, 東洋建設

PIANC YP-Com 活動報告

2020年度



PIANC YP-Com 日本代表 伴野 雅之
港湾空港技術研究所 沿岸環境研究領域

PIANC YP-Com 日本副代表 吉塚 尚純
日建工学株式会社 国際事業部



YP-Comについて

- YP-Com(若手技術者委員会):
 - 2006年に結成されたPIANC会員の40歳以下を対象とした若手の会、現時点で世界36か国が参加している。
 - 技術交流、情報交換などの目的もあるが、主目的は発注機関、研究機関、港湾運営会社、建設会社、コンサルタント、メーカー等といった枠を越えて、港湾の若手ネットワークを構築、維持することである。
 - 日本では2014年から活動が活発化。



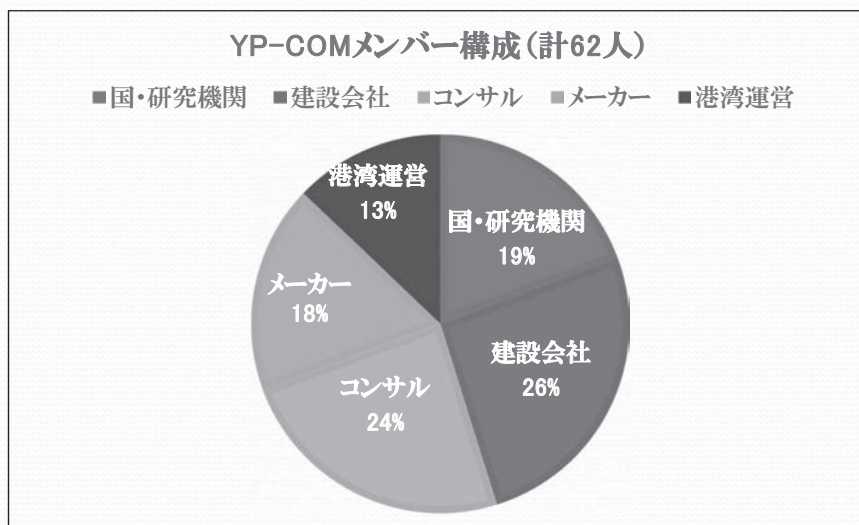
名古屋港 飛島ふ頭地区見学会(2019)
協力:名古屋港湾事務所、みらい建設工業

＜YP-Com Japan所属メンバー＞

港湾空港技術研究所, 日建工学, 国土技術政策総合研究所,
国土交通省, 株木建設, 阪神国際港湾, 大本組, 五洋建設,
不動テトラ, みらい建設工業, 清水建設, 三井住友建設,
シバタ工業, 東亜建設工業, 東洋建設, りんかい日産建設,
杉江製陶, 日本港湾コンサルタント, パシフィックコンサルタンツ,
ニュージェック, 八千代エンジニアリング, 港湾空港総合技術センター,
エコー, 日本気象協会, 日立造船(入会順)



YP-Com 日本メンバー構成



2020年1月時点で40歳以下の若手技術者が62名が参加(うち女性メンバー4名)。
 ※40歳を超えたメンバーはYPアルムナイ(同窓会)として活動を継続、
 現役メンバーをサポート(計19名)。



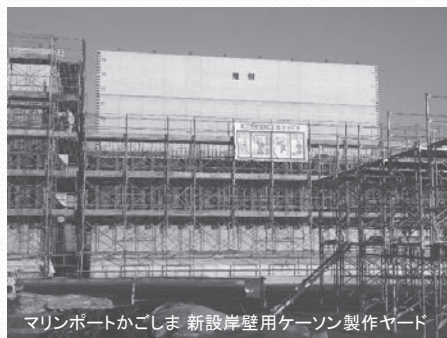
2019年度活動報告①

- 国内会合を年2回開催。4月 国内の集い&現場見学会 in 名古屋



2019年度活動報告②

- 国内会合を年2回開催。11月 国内の集い&現場見学会 in 鹿児島



2019年度活動報告③

- 神戸AGA並行YPセミナー
神戸AGAの開催に合わせて、海外YPメンバーを交えた若手セミナーを3日間の日程で開催。7カ国(日,韓,比,米,蘭,亜,西)から約30名が参加。



2019年度活動報告④

● YP-Com BTVへの参加

シンガポールで行われたYP-Comの定期会議とYP-Comが2年に1回開催している現地技術見学会へ参加。



YP-Com定期会議



BTV参加者



YP-Comメンバーの取り組み

● 若手論文賞『デパペ・ウィレムス賞』への投稿:

- 2013年 デパペ賞 松下 紘資 氏(日建工学)
- 2015年 3位入賞 三井 順 氏(不動テトラ)
- 2018年 デパペ賞 水野 剣一 氏(五洋建設)
- 2019年 2位入賞 倉原 義之介 氏(東亜建設工業)

● Working with Nature賞へのプロジェクト投稿:

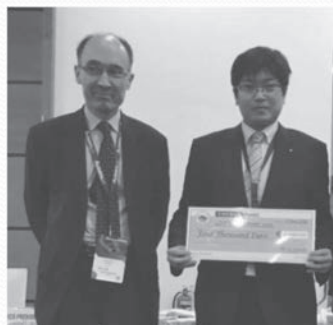
- 2018年 WwNプロジェクト認証取得 吉塚 尚純 氏(日建工学)



松下 紘資 氏
(2013年マルセイユAGA)



三井 順 氏
(2015年ポルトAGA)



水野 剣一 氏
(2018年パナマAGA)



倉原 義之介 氏
(2019年神戸AGA)



他組織活動への参加

2020年2月 JOPCA若手勉強会への参加

2020年2月 令和元年度『技術協力のあり方を考える研究会』

国際港湾協力協会(JOPCA)主催、国土交通省港湾局後援、
PIANC JAPAN 協賛

毎年2月に国土交通省港湾局およびJOPCA会員企業の若手が参加する勉強会。国際機関や海外経験豊富な講師を迎え、講演およびパネルディスカッションが実際される。

他組織の若手との交流促進を目的として、YP-Comからも5名が参加。



活動促進に向けた外部への情報発信①

2019年10月 国際業務に携わる官民若手技術者勉強会

国土交通省・JTCA(海外運輸協力協会) が若手職員の国際業務に対するモチベーション向上を目的とし勉強会を開催。その中でYP-Comの取り組みについて紹介する機会を頂き、他組織の若手と交流した。YP-comに興味を持った若手は交流会に招待した。



活動促進に向けた外部への情報発信②

- 雑誌『港湾 12月号』、港湾空港タイムス(12/2号)にて YP-Comの取り組みを紹介。



(発行) 公益社団法人 日本港湾協会



(発行) 株式会社都市計画通信社



その他交流イベント

8月 暑気払い(東京開催)



YP-Comの大きな目的の一つは、港湾の若手ネットワークの構築であることから、発注機関、研究機関、港湾運営会社、建設会社、コンサルタント、メーカー等といった枠を越えたネットワーク形成のためのイベントを開催。

12月 忘年会(大阪、東京の2会場開催)



〈参考〉PIANC カンボジア・セミナー（R1.10/24-25）写真集

〈第1日:10/24〉



林田副会長（日本部会長）挨拶



イアン・ベンスン長官挨拶（MPWT）



セミナー参加者



PIANC 本部カペレン事務局長説明



チャン・ダラ次官（MPWT）



プレス対応



リタリンゲン教授(デルフト大)



ボーン・ヴッティー海事港湾局次長(MPWT)



ウェンズ氏(PIANC)



シッチ・ピチェイリッティー氏(MPWT 水運港湾局)



ロス・ソフォンナー氏(MPWT 水運港湾局)



デブレ氏(PIANC)

〈バンケット〉



林田副会長(日本部会長)挨拶



マク・シデ総局長(MPWT 水運港湾局)挨拶



平澤首席国際調整官(国土交通省)



ヘム・ラムラヴ氏(東洋建設・司会)

〈第2日:10/25〉



池町研究主幹(港湾荷役機械システム協会)



同左



スー・ファリー氏 (MPWT 水運港湾局)



ファン・ヘイ氏 (プノンペン港湾公社)



メイン・チャン氏 (シアヌークビル港湾公社)



同左



ヘム・ラムラヴ氏 (東洋建設)



小野氏 (阪神国際港湾・CoCom)



パネル・ディスカッション



カペレン事務局総括説明



チャン・ダラ次官閉会挨拶



記念品授受

令和1年10月25日(金)

The Phnom Penh Post

第7面

PIANC membership set to make splash in waterways

Thou Vireak

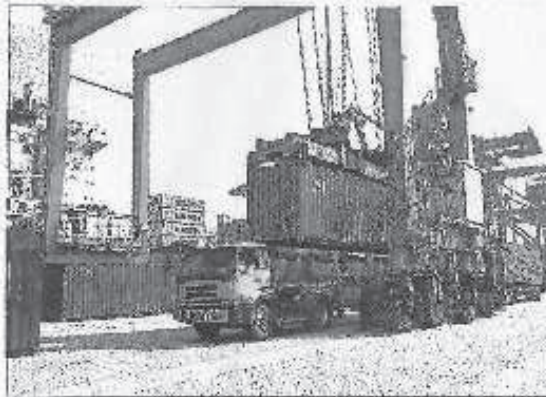
CAMBODIA expects to benefit from additional management and development skills in waterways and ports as a member of the World Association for Waterborne Transport Infrastructure (PIANC), Ministry of Public Works and Transport secretary of state Eang Vong Sun said on Thursday.

The remarks came on the opening day of the first PIANC-Cambodia workshop in Phnom Penh, being held on Thursday and Friday under the theme *Waterway Infrastructure Development*.

Vong Sun said waterway transport has played an important role in boosting Cambodia's economic growth. The high domestic demand for goods meant the waterway transport and port sectors needed to meet international standards.

"We hope this workshop will encourage Cambodian ports to support and facilitate the flow of goods for international and domestic trade," he said.

PIANC is a globally recognised international organisation that promotes the maintenance and development of waterway and port infrastructure. It currently has members in



Waterway transport has played an important role in boosting Cambodia's economic growth, Ministry of Public Works and Transport secretary of state Eang Vong Sun said on Thursday. PHN PENH

65 countries, of which 40, including Cambodia, are "qualifying members".

The acronym PIANC comes from the organisation's former name - the Permanent International Association of Navigation Congresses.

Vong Sun said the Kingdom was recognised as a qualifying member in September last year.

"The joining of PIANC will ensure enhanced skills in managing and developing port and waterway infrastructure in Cambodia for connection with ports and the shipping community worldwide," he said.

Speaking at the workshop, PIANC vice president Hiroshi Hayashida said the

organisation's current aim is to provide the public and private sectors with technical assistance from international experts on the economic and environmental issues related to waterway transport infrastructure.

"We want to strengthen mutual cooperation with Cambodia... Today's workshop is a symbol of the reinforcement of PIANC's cooperation with the Kingdom," he said.

Hayashida, who is also president of PIANC Japan, said Cambodia needed to further strengthen management and technological development in the waterway transportation sector.

"The Japanese government has been helping

in the development of new technologies at Sihanoukville port, as well as helping develop operational and management knowledge to serve the sector," Hayashida said.

Cambodia Freight Forwarders Association president Sin Chanthy said the Kingdom's waterway transport sector struggled to attract large vessels as shipping services remained more expensive than in neighbouring Vietnam and Thailand.

"We only see smaller boats carrying goods through Cambodia's ports, we don't get large vessels," Chanthy said.

He said the government should encourage the use of waterways to transport goods rather than doing so by land as this was costly and damaged roads.

Ministry of Public Works and Transport undersecretary of state Chan Dara said the government is currently focusing on developing the waterway transport sector.

"We do not want our waterways to remain motionless, without any activity. Transport via waterways will boost Cambodia's economy. It will bring people income and contribute to poverty reduction in Cambodia," he said. ■